

松陰をもっと知ろう!

# 吉田松陰略伝

幕末動乱の時代に生を受け、「至誠」を貫き通し、勇敢に行動した吉田松陰。松下村塾で多くの志士を育て、30歳でこの世を去ったその生涯には、いくどかの転機がありました。松陰の短くも激しい生涯をふりかえります。

(年齢は数え年を記載しています。)

- 1 吉田家を継ぐ** 天保6年(1835) 6歳  
萩藩士の杉百合之助の次男として生まれた松陰は、6歳の時に、急死した叔父吉田大助がつとめた藩の兵学師範を受け継ぐこととなりました。このことにより、松陰は藩校明倫館で兵学を教えることが義務づけられ、ここから人生が大きく変わっていきました。
- 2 兵学を修業する** 天保11年(1840)前後 11歳ころ  
兵学は用兵や戦術などを研究する学問で、軍学ともいいます。江戸時代には、儒学とならぶ武士の基礎学問でした。しかし、幼くして兵学師範になった松陰に、教師としての力量は備っていません。周囲の人々は、松陰が一人前になるまで英才教育を行いました。
- 3 日本各地へ旅をする** 嘉永3年(1850) 21歳  
松陰が生まれ育った19世紀なかばの日本は、農民が一揆を起こしたり、欧米の黒船が近海に現れたり、世の中にさまざまな異変が生じていました。松陰はその原因を探るため、自分の足で九州から東北まで旅に出かけます。歩いた距離は約13,000キロメートルにもおよびました。
- 4 亡命罪で罰を受ける** 嘉永5年(1852) 23歳  
松陰は親友宮部鼎蔵との東北旅行から帰ったあと、武士の身分を奪われるなど、厳しい処罰を受けました。それは、宮部との約束を守るため藩から関所手形が発行されるのを待たずに旅に出たからです。しかし、松陰は藩主から特別に10か年の修業を許され、さらに各地を旅して知識と見聞を広めました。
- 5 アメリカ行きに失敗する** 安政元年(1854) 25歳  
松陰が国内を歩き回り、欧米の脅威から日本を守るための方法を考えていた時、アメリカのペリーが日本に開国を要求してきました。松陰は直接自分の目で海外の実情を確かめたいと考え、下田でペリーの黒船に乗りこみますが、拒絶され、自首し、とらわれの身となりました。
- 6 野山獄で勉強する** 安政2年(1855) 26歳  
松陰は海外渡航禁止令を犯した罪により、萩の野山獄に入れられました。ここでは読書に励むかたわら、他の囚人たちと勉強会を始めます。松陰は『孟子』を講義する一方、俳諧や書道を教わりました。これは「獄中教育」と呼ばれ、松下村塾の原型ともなりました。
- 7 松下村塾を継ぐ** 安政4年(1857) 28歳  
松陰が野山獄を出て実家の杉家に移ると、親類や近所の若者たちが教えをこいに集まってきました。人数が増え続けたので家族は松陰のために小屋を修理して松下村塾の塾舎とします。ここで教を受けた志ある若者たちは、その後、日本の変革を担いました。
- 8 幕府政治を批判する** 安政5年(1858) 29歳  
松下村塾で若者の指導にあたった松陰のもとに、重大ニュースが飛び込んできました。それは、幕府が朝廷に無断で、日米修好通商条約に調印したこと。松陰は、幕府の外交政策を批判する意見書を藩に提出するなど、しだいに言動がエスカレートしていきました。
- 9 再び野山獄に入る** 安政5年(1858) 29歳  
藩の重役は、幕府に対して遠慮し、松陰の自由勝手な発言を許してはならないと判断します。そのため松陰は再び野山獄に入れられることになりました。松陰は自分の意見が通じないことに絶望しつつ、「至誠」は必ず人を動かすことができるとあきらめませんでした。
- 10 江戸で処刑される** 安政6年(1859) 30歳  
大老の井伊直弼は安政の大獄で、幕府政治を批判する人々を取り締まります。松陰にもその疑いがかけられ、江戸へ呼び出されました。対する松陰は、自分の意見が正しいと信じ、幕府への批判を堂々と述べます。松陰は「至誠」を貫き通し、この世を去っていきました。

ちょっと足 をのばして…

ここへも行ってみよう!!



## ①野山獄跡

安政元年(1854)、海外渡航に失敗した吉田松陰が投じられました。松陰は「自由に行動はできないが、本を読んだり、ものを考えたりするには最もよい所だ」と考え読書などに励みました。出獄するまでの約1年2ヶ月の間に、550冊以上の書物を読み、「幽囚録」「土規七則」など多くの著述をしました。



## ②涙松跡

萩の市街地を望むことのできる最後の場所「涙松」。萩を出る人は、この場所で涙を流し萩の町に最後の別れをしました。江戸に送られる松陰もまた、この場所から萩の町を眺め「かえらじと思ひさだめし旅なればひとしおぬるる涙松かな」と詠んでいます。



## ③萩博物館

「萩まちじゅう博物館」の中核施設として平成16年にオープン。萩の歴史や自然などに関する資料を数多く展示しています。松陰はもちろんですが、門下生の高杉晋作の資料も多く展示されています。萩に関する資料はここで入手できます。



## ④泉福寺

浄土真宗本願寺派の泉福寺は、幕末に松下村塾で数多くの勤皇の志士達を輩出した吉田松陰(吉田家)の菩提寺です。本堂には、吉田家の家系図があり、明治以降に撮影された松陰先生ゆかりの人々の写真が飾られています。本堂うしろの位牌堂には、松陰の遺言のとおり「松陰二十一回猛士」と刻まれた位牌が、松陰の石膏像とともに安置されています。

## 歴史のまち 萩を探訪



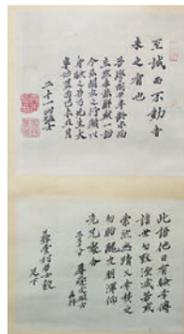
至誠館で

# 松陰ゆかりの品を チェックしよう!



## 留魂録

獄中の松陰が塾生や兵学門下生にあてて書き上げた遺書。留魂録に込められた松陰の遺志は志士達に受け継がれ、やがて倒幕への原動力となりました。



## 至誠

松陰が安政の大獄で江戸に送られる前に書いたものです。『孟子』の一節「至誠にして動かざるは未だこれ有らざるなり」を引用し、まごころを尽くして世の中を変えてみせるとの決意を、義弟の小田村伊之助(楢取素彦)に宛てて書いています。



## 吉田松陰自賛肖像

自賛肖像は松陰最後の旅立ちを前に塾生の松浦松洞が描いた肖像に、小田村伊之助(楢取素彦)の勧めで賛を入れたものです。その出来映えは松陰も認めるほどでした。

「万卷の書を読むに非ざるよりは、安んぞ千秋の人たるを得ん。」「己の労を軽んずるに非ざるよりは、安んぞ兆民の安きを致すを得ん。」  
松陰が27歳の時に言った知行合一を表した言葉が刻まれています。自分ができるべきことに努力を惜しむようでは、世の中の役に立つ人になることはできない。松陰がやるべきことに努力を惜しむようでは、安んぞ千秋の人たるを得ん。自分ができるべきことに努力を惜しむようでは、世の中の役に立つ人になることはできない。



## 松陰所用の陣笠

松陰が使用した陣笠で、黒漆塗りに金時絵で吉田家の家紋「木瓜に左万字」が押されています。松陰と同じ時を過ごしたゆかりの品からも意志が伝わってくるようです。

お問い合わせ

萩市観光課

〒758-8555 山口県萩市江向510 ☎0838-25-3139



萩まちあるきマップ

維新の先覚者

# 吉田松陰

ゆかりの地を巡る!



松陰をもっと知ろう!  
吉田松陰略伝

維新の先覚者  
吉田松陰ゆかりの地を訪ねてみよう!

至誠館で  
松陰ゆかりの品をチェックしよう!

## ② 松下村塾 (世界遺産)

松下村塾は、玉木文之進(松陰の叔父)が天保13年(1842)に自宅で私塾を開いたのが始まりで、ついで久保五郎左衛門が継承し、安政4年(1857)、28歳の松陰がこれを継ぎました。松陰は身分や階級にとらわれず塾生として受け入れ僅か1年余りの間でしたが、久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文など明治維新の原動力となる多くの逸材を育てました。当時、この地域が松本村と呼ばれていたことから「松下村塾」という名が付けられました。日本の近代化、工業化の過程で重要な役割を担った多くの逸材がここで学びました。



## ③ 吉田松陰幽囚ノ旧宅 (世界遺産)



下田での海外渡航に失敗した松陰は、安政元年(1854)野山獄に入れられ、翌年にこの実家である杉家に帰され謹慎生活を命じられました。松陰は家族からの薦めもあり幽囚室で『孟子』などを講じるようになりました。次第に多くの若者が参加するようになり、やがて松陰は松下村塾を主宰するようになりました。松下村塾とともに世界遺産に登録されました。

## ④ 松陰神社 (御本殿)

吉田松陰を祭神とする神社で明治23年(1890)に松下村塾の西側に土蔵造りの小祠を建てたのが始まりです。その後、明治40年(1907)伊藤博文らの努力により県社の社格を得て、萩城内にあった宮崎八幡宮(毛利家鎮守)の神殿が移築されました。現在の社殿は昭和30年に完成し御神体として松陰愛用の赤間硯と父叔兄宛に書かれた書簡の2品が祀られています。



## ⑤ 松浦松洞誕生地

松洞(亀太郎)は、幼い頃から絵が得意で、京都の小田海徳に画法を学びました。安政3年(1856)、20歳で松下村塾に入塾し、松陰が江戸に送られる直前に肖像画を描きました。複数のうちの一つは松陰神社に大切に保存されています。文久2年(1862)自決。お墓は近くの通心寺にあります。



### 「まちあるき」のルール

- 所要時間は、歩く速度、観覧時間により個人差があります。
- 歩きやすい服装と靴で歩かれることをお勧めします。
- 車などに注意し、交通ルールを守って下さい。
- 観光施設以外の施設も含まれていますので、マナーを守って下さい。

# 維新の先覚者 吉田松陰 ゆかりの地を訪ねてみよう!!

## ① 松陰神社宝物殿 至誠館

松陰神社に伝えられてきた松陰に関する貴重な遺品・遺墨等を保存し、その「志」を次世代に引き継ぐために平成21年に開館しました。まずは、ここで松陰の「志」に触れて散策に出かけましょう。

【開館】9時～17時 【休】無休  
【TEL】0838-24-1027  
【料金】一般500円、中・高生250円  
小学生100円



## 松陰神社境内図



## ⑥ 吉田稔磨誕生地

稔磨(栄太郎)は少年期には宝蔵院流槍術を学び、安政3年(1856)松本村から最初の塾生として松下村塾に入塾しました。学問にすぐれ「松下村塾四天王」の一人と称され、松陰から最も期待された一人でした。元治元年(1864)京都池田屋で新撰組に襲われ闘死(自刃とも)しました。松陰が江戸へ送られる際には、この旧宅の北隣の家を生垣から涙ながらに見送ったようです。



## ⑦ 伊藤博文旧宅・別邸



博文は天保12年(1841)、現在の山口県光市の農家に生まれ、9歳の時、萩に移り、両親とも伊藤家に入家し、この家に住むようになりました。安政4年(1857)に松下村塾に入塾し、松陰から「なかなかの周旋家(政治家)になりそうだ」と評されました。文久3年(1863)には長州ファイブの1人として英国に留学。明治になり憲法制定に携わり、初代内閣総理大臣となりました。旧宅の隣に建つ別邸は、博文が明治40年(1907)に東京府下荏原郡大井村に建てたものです。往時の面影をよく残す玄関、大広間、離れ座敷の3棟を萩に移築しています。

伊藤博文別邸／【開館】9時～17時 【休】無休 【料金】100円(小学生以上)  
伊藤博文旧宅／見学自由

コース 全行程／約3km  
所要時間／約2時間

①至誠館 → ②松下村塾 → ③吉田松陰幽囚ノ旧宅 → ④松陰神社 → ⑤松浦松洞誕生地 → ⑥吉田稔磨誕生地 → ⑦伊藤博文旧宅・別邸 → ⑧玉木文之進旧宅 → ⑨吉田松陰誕生地・墓所 → ⑩明安寺

## ⑩ 明安寺

嘉永2年(1849)羽賀台で行われた演習の際には、松陰はこの境内に門下生を集めて出発しました。また、安政2年(1855)僧侶月性は明安寺本堂において講話を7日間実施し、松下村塾生も受講しました。月性は、現在の柳井市妙円寺の住職で、藩論を攘夷に向かわせるのに努め、松陰とも親交が深い人でした。またここは、稔磨の幼少期の遊び場でもあり、松陰門下生の品川弥二郎の菩提寺でもあります。



## ⑨ 吉田松陰誕生地・墓所

吉田松陰は、天保元年(1830)に萩藩杉百合之助の次男としてこの地に生まれ、本名は矩方、通称寅次郎といました。松陰は兄と一緒に父につれられて、よく田畑の仕事に行き、そこで手習いや読書を父から教わりました。高台には吉田松陰・金子重輔の銅像が建っています。墓所には、吉田家や門下生の墓があり、松陰の墓の前には、高杉晋作、伊藤博文など27名が寄進した水盤や花立などが供えられています。



### 「二十一回猛士」ってなあに?

松陰の墓の表には「松陰二十一回猛士墓」と刻まれています。松陰は野山獄にいた頃、夢に出てきた神様からの進言により自分のことを二十一回猛士と呼ぶようになりました。「吉田」は、吉が十一と小さい口、田は十と大きい口、吉田を組み合わせて二十一回となります。杉(十八多)の字もその組み立てが二十一になることのお示しをうけました。猛士とは、自分の信ずる事を貫く人という意味です。海外渡航など失敗もありましたが、まだまだ奮い立って行こうという意気のあらわれです。

## ⑧ 玉木文之進旧宅

玉木文之進は吉田松陰の父杉百合之助の末弟で、文化7年(1810)に生まれ、後に玉木家を継ぎました。文之進は、兄百合之助にも負けない勉強家で、松陰も文之進について勉強しました。松陰が、「玉木の叔父に叱られたほど怖いことはない」と言うほど厳しい人でした。天保13年(1842)、文之進は近くの子どもを集めて塾を開き、松下村塾と名付けました。この地はまさに「松下村塾発祥地」です。

【開館】9時～17時  
【休】無休  
【料金】無料

